

電気通信大学 平成17年度シラバス

授業科目名	メディアリテラシーA		
英文授業科目名	Media Literacy A		
開講年度	2005年度	開講年次	1年次
開講学期	2学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	専門科目-学科専門科目-選択必修科目		
開講学科・専攻	人間コミュニケーション学科		
担当教官名	兼子 正勝		
居室	西6-409		

公開E-Mail	授業関連Webページ
kaneko@hc.uec.ac.jp	http://oz.hc.uec.ac.jp

【主題および達成目標】
<p>「リテラシー」とは本来「(文字の)読み書き能力」という意味で、「文字」が情報伝達の主要手段であった時代に、仕事をしたり社会生活をおくるために最低限学ばなければならない事柄を指していました(日本語では「読み書きそろばん」と言いますね)。現代では情報の媒体が、文字だけでなく映像やネットワークに広がっているので、こうした多様な情報メディアを通して、メッセージを受け取ったり、読み解いたり、発信したりするための、基本的な知識や感覚を養うのが「メディアリテラシー」です。</p> <p>このうち「メディアリテラシーA」では、テレビ・映画・ビデオなどの映像メディアを中心に、マルチメディア・メディアミックスにつながる主題を扱います。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
なし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
なし

【教科書等】
なし

【授業内容とその進め方】

授業は前半と後半に別れ、前半では映像メディアの「読み」つまり分析・解釈について、後半では「書き」つまり制作について、それぞれ講義と演習をおこないます。大まかな進行は以下の通りです。

1) ガイダンス

2) 静止画：写真分析の講義と演習?-メディアはたんに事実を伝えるのではなく、事実を「意味」として再構成するということ

3) フレーム：ニュース映像の分析演習および講義1??映像は事実の一部を切り取り、残りを捨てるということ。

4) モンタージュ：ニュース映像の分析演習および講義2??映像は切り取った事実のいくつかを結びつけることで、意味を作りあげるということ。

5) コンセプト：CMおよびマルチメディア表現の分析演習および講義?-メディアはたんに「意味」を持つだけでなく、その意味によって人に働きかけ、人をある方向に動かそうとするということ。

6) 分析総論：情報メディア全般についての分析演習および講義??メディア技術の変化によって、フレームやモンタージュやコンセプトが変化するということ。

7) 制作演習1：コンセプトと情報メディアの特性

8) 制作演習2：DVとムービー形式

9) 制作演習3：ノンリニア編集

10) 制作演習4：効果とマルチメディア・メディアミックス表現

11) 作品合評会

12) 制作総論：現代の映像

このうち制作演習では、全体を4?5人の班に分け、班ごとに短い作品をつくります。1999年度の作品制作の様子が学科HPに掲載されていますので、参考にしてください(上記関連Webページ)。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

毎回の演習における平常点、前半と後半の個人レポート、後半の班ごとの提出作品、この3つの総合点で評価をおこないます。

このうち前半レポート・後半レポートがおおむね評価の80%を占めます。

電気通信大学 平成17年度シラバス

2つのレポートを提出し、後半の作品提出をおこなっていることが、評価の最低要件です。

【オフィスアワー：授業相談】

水曜日 6限、木曜日 3限

不在の場合はメールで連絡すること

【学生へのメッセージ】

授業へのアクティブな参加を期待します。

【その他】